

全日本民医連 2010年国民健康保険など死亡事例調査報告 【Ⅱ、協会けんぽ・国保・後期高齢者】 2011.3.27 1/3

| No | 県連 | 年齢 | 性別 | 職業 | 保険 | 保険 推移 | 初診 日 | 基礎 疾患 | 死亡 日 | 事例 | 事業所とのかかわり | 結果(帰結) |
|----|-----|----|----|----|------|----------|------------|----------|---------|--|---|--|
| 43 | 北海道 | 61 | 男 | 無職 | 国保 | 国保↓生保 | 2010.6.24 | 肝細胞癌、肝硬変 | 9月3日 | 3年前までは仕事もあり、健診等を受けていたが退職後の3年間は健診も受診も受けていなかった(経済的理由により受診できなかった)。2010年6月15日頃から両下肢の浮腫等が出現。他院に受診し当院紹介あり入院。肝細胞がん末期の状態であり来院時には治療できる状態ではなかった。妻と2人暮らしだが妻は知的障害がある状態。 | 年金担保で借金している状態で生活困窮していた。年金担保の借金に対して生活保護申請が厳しい状況にあるものの生活自体崩壊しているため7/1区役所に行き生活保護申請、決定になる。6月分の医療費については無料低額診療制度を活用した。 | 経済的な理由から病院にかかれず、入院してすぐ生活保護申請し決定するも初診から3カ月余りで亡くなる。知的障害のある妻を残して死亡退院となった。 |
| 44 | 北海道 | 77 | 男 | 年金 | 後期高齢 | 国保↓後期医療 | 2009.10.10 | 肺癌 | 4月1日 | H11年直腸癌にて当院で切断術施行され、H20年まで外科外来フォロー。医療費の不安から中断し、前立腺肥大症にてH21年9月に他院で左上葉の腫瘍を指摘され、10/10に当院内科受診。国立病院へ紹介、肺がんと診断。高度進行で、化学療法はせず、自然経過となる。当院にて経過観察、徐々に食欲低下、息切れ増強していた。2/26に呼吸苦で受診、肺炎合併を指摘し入院。在宅酸素療法で自宅退院を目指していた矢先、呼吸状態悪化、4/1永眠された。 | 生活保護基準以下の収入で経済困難。大工の仕事は体力的に辛く、H14年(69歳)頃より激減させ、紹介があれば手伝う程度だった。そのためH20.12月頃保護課へ相談をしたが持ち家に住んでいることを理由に申請させてもらえず、H20.10.20~21.9.18経済困難を理由に中断の経過あり、中断中は外来スタッフ、医事課、SWより電話、はがきでアプローチしていた。SWと電話で無料低額制度の利用相談をし、受診につながった。未収金はH15年の入院費などで計246,342円。経済状況はH15年から変化はない、とのことだった。 | 医療費の不安からすぐに受診できなかった入院費は無料低額制度を利用し自己負担はなし。 |
| 45 | 北海道 | 65 | 男 | 年金 | 国保 | | 2010.2.10 | 胃癌 | 3月7日 | 6ヶ月前に左鎖骨部の腫瘍に気づいたがそのままにしていた。その後、腹部膨満感、食欲不振等出現し2/10当院初診。多発肝、リンパ節転移、腹水貯留を認め当院急性期病棟へ入院。胃内視鏡検査にて原発は胃がんと診断。高度進行、予後数ヶ月という状態。緩和医療を提案したが、本人は治療を希望。化学療養の適否の判断目的で、セカンドオピニオンを受ける予定だったが容態悪化し、3/7永眠された。 | 2001年当院にけがで入院。入院をきっかけに会社を解雇。当法人以外の病院でセカンドオピニオンを希望したかったが、費用負担困難なため、当院外科医師の意見を聞いた。2002年に当院入院分の未収金が残り56,157円あり、月々1,000円納金していた。長男はパート、二男は約半年前に無職となり就職活動中。生命保険は未加入で入院費は支払い困難。よって、無料低額制度を申請し、決定した。 | 医療費の不安からすぐに受診できなかった。受診した頃には手遅れの状態で1ヶ月弱で死亡。入院費は無料低額制度を利用し自己負担はなし。 |

| No | 県連 | 年齢 | 性別 | 職業 | 保険 | 保険 推移 | 初診 日 | 基礎 疾患 | 死亡 日 | 事例 | 事業所とのかかわり | 結果(帰結) |
|----|----|----|----|-------|----|----------|-----------|----------------------|---------|---|---|--|
| 46 | 青森 | 51 | 女 | 無職 | 国保 | | 2010.9.8 | 進行乳癌 | 9月18日 | 夫は大工で収入月額15万円。冬季は仕事なく失業手当で生活。長女(23)、次女(20)がバイト、あわせて月額20万円弱の収入。三女(14)、四女(13)の学費などは滞納。夫名義の借金あり、金額は不明。 | H22.9.8受診、進行乳癌、転移性肝癌、閉塞性黄疸の診断で即日入院。2年前から右胸が発赤・腫脹あり、くぼんで膿が出ていた。8月初めから腹満、下肢浮腫があり食欲低下。8月後半から全身黄疸出現し、鼻出血も繰り返していたが経済的理由で受診できずにいた。入院後SW介入。 | 入院後、長女・次女と面談、無低について説明、家族と相談するということになった。その後SWと父が面談する前に本人が亡くなってしまい、無低は適応にならず。生保相談は1度目の面談での説明のみとなり退院された。 |
| 47 | 秋田 | 59 | 男 | 非正規雇用 | 国保 | | 2010.9.13 | S状結腸癌、 肝癌、 転移性 | 10月15日 | H22年9/13、外来受診、原発不明の肝癌と下肢浮腫のため。翌9/14入院、検査にてS状結腸癌とわかる。入院日に本人より生保希望あり、市役所へ連絡入れる。他県出身で兄弟がいると思われるが、何十年も連絡とっておらず連絡先もわからない。国保証あるが、日雇いで預金なく負債あり受診しなかった。 | 9/13外来時点で医師より相談室へ連絡あり。9/14入院時本人と面談、経済状況確認する。日雇いで日給7,000円。月によって収入にばらつきあり、加えてクレジットローン、家賃滞納、雇い主にも借金あり、収入を上回っている状態。まずは生保申請意思を電話し、9/15市役所より調査にきてもらった。 | 日雇い分収入が9月末、10月末に入ることがわかっていたが、市役所の裁量で10/2保護決定。しかし家賃高いため、転居と自己破産も同時に行っていく前提だった。10/15急変し死去。葬儀扶助の範囲で葬儀をしてくれる葬儀屋へ依頼、行ってもらう。お骨の受取人はいないため、無縁仏となる。 |
| 48 | 秋田 | 58 | 女 | 無職 | 国保 | | 2010.6.8 | S状結腸癌、 直腸癌 | 11月4日 | 7年前から便秘、6年前から左下腹部にしこりがあったが様子を見ていた。4月診療所受診、当院で手術予定していたが、本人拒否していた(医療費がかかるため)。手術の決心がつき入院、手術受けたが転移性肝癌もあり予後不良。退院し化学療法のため通院、状態不良で再入院する。 | H22年7月の入院時、看護師・医師より連絡受け、「経済的に難あり」とのことで夫、本人と面談。夫との2人暮らし。夫が日雇いの仕事(建築関係)で、月平均20-25万円くらいの収入。保険料滞納分が少しと借り入れがあり、返済をしながらの生活だった。本人は入院すると医療費がかかることを嫌がり、入院拒否していた。高額医療の限度額適用認定証、貸付制度、病院での分割支払いなどの援助を行った。 | 当院退院後、外来通院で化学療法を継続していた。状態急変し、再入院、入院4日目に当院にて死亡。 |
| 49 | 群馬 | 58 | 男 | 非正規雇用 | 国保 | | 2009.1 | C型 肝硬変 | 11月16日 | 受診中断により病状悪化し亡くなったケース。今年2月より受診中断、9-10月吐血あったが受診せず。11月に吐血あり、救急搬送されるも同日逝去された。 | 受診中断のため、外来より電話連絡したが、受診につながらなかった。理由をたずねても大変というだけだった。入院時妻が「家賃支払いが大変なので(もう本人は食べられないから)食事は出さないでください」と話していたと。 | 経済的理由により、受診中断されていたものと思われる。NSからアプローチされたものの、SW介入依頼につながらず何らかの手が打てたのではないかと悔いが残る。 |

全日本民医連 2010年国民健康保険など死亡事例調査報告 【Ⅱ、協会けんぽ・国保・後期高齢者】 2011.3.27 1/3

| No | 県連 | 年齢 | 性別 | 職業 | 保険 | 保険推移 | 初診日 | 基礎疾患 | 死亡日 | 事例 | 事業所とのかかわり | 結果(帰結) |
|----|-----|----|----|-------|-------|-------------|-----------|-------------|-------|--|--|--|
| 50 | 群馬 | 60 | 男 | 非正規雇用 | 国保 | | 2008.7.30 | C型肝炎、肝硬変、肝癌 | 11月5日 | 土木作業員で生計を立てていた。アパートにて独居。なにかあると(借金など)実家の弟が支払ってくれていた。但し保険証は実家に送付されていたため、具合の悪さを自覚した本人が実家に取りに行くまでは手元に保険証はなかった。 | 2008年、事業所健診で肝臓の異状あり同日当院外来受診。エコー検査にて肝がん、破裂の危険性を指摘されるもその後2年以上受診なし。 | 2010年10月上旬より、下肢浮腫出現、10月下旬より腹部膨満、食欲低下あり11/4当院受診。入院後多発性肝細胞がんの診断、翌日逝去された。入院期間が短期だったため弟が支払いをしてくれた。 |
| 51 | 神奈川 | 56 | 男 | 正規雇用 | 協会けんぽ | 協会けんぽ↓生保 | H19. 8月頃 | 上行結腸癌、膵臓癌 | 6月5日 | 56歳 男性 ひとり暮らし。H19結腸癌術後、化学療法のため外来通院していた。その後、両親の介護や仕事(タクシー)していたため、受診にこられず中断していた。H20年癌再発認め、外来での化学療法、疼痛コントロール開始となる。病状の進行にともない、仕事していくのも厳しくなり、会社より病氣療養を提案され傷病手当もらう。 | H21上記の外来通院中、今後仕事もできなくなり傷病手当、収入もなくなるので経済的なことが心配である、と相談にこられる。相談時点では、傷病手当あったため、使い果たして生活保護申請をしていく提案をする。その後急速に病状進行し、H22.2.9入院し 3.2生活保護申請する。 | 入院後4ヶ月ほどで亡くなる。入院中に、日本経済新聞から取材を受けて掲載された方でもある。 病気になる、治療が長くなることで経済的な基盤がぐずれていった。また、家族の介護と仕事の両立で自分のことが後回しになっていた。 |
| 52 | 山梨 | 47 | 男 | 非正規雇用 | 国保 | 国保↓生保(7/25) | 2010.6.14 | 肝腫瘍 | 8月6日 | 元々はマレーシアで生まれ育ち、10数年前に日本に來日。6年前に日本人女性と結婚された。家族状況は妻(36)とその弟(28)の3人暮らし。本人は職を転々としており県外で配管工事に3年勤め、H22. 3に当県へ。それ以降は弁当屋で働き月13万の収入あり。妻は3年前から無職。弟はうつ病にて県外の心療内科に通院しており、無職。弟には車などの借金が100万あり。家賃5万円で、生活はぎりぎりな状況だった。 | 国保は本証で限度額認定証も発行してもらったが、医療費の支払いや生活も困難ということで、生活保護を申請。家賃が高いこと、弟さんも同居していることもあり、生保側は躊躇されたが、結果生保側で生保基準内のアパートを探してくれ、弟は近くの実家の所に移り、夫婦2人で生活保護が認められた。2月から腹痛を我慢し、市販薬でなんとか症状も抑えられていたが、症状悪化にて来院。受診結果より肝臓に腫瘍があると分かり、入院を促すが、本人の収入で一家3人が暮らしていたため休むわけにはいかないと入院を拒否。 | 病状悪化にて6/21~当院に入院。6/29に本人に予後も3ヶ月だと病状説明された。その後、本人からも生活保護申請の意思を確認し、7/2に生保担当者に来院してもらい、申請へ。入院中に他院のセカンドオピニオン外来も行き、腹水のコントロールをしながら病状診ていたが、黄疸が進み、本人と話をしたなかで自宅療養したいということで8/4に一時退院され、8/6に当院にて死亡された。 |
| 53 | 長野 | 62 | 男 | 非正規雇用 | 国保 | 協会けんぽ↓退職国保 | 2010.1.22 | なし | 1月31日 | 60歳まで会社員。離婚し独居。会社退職後パートで働く。退職の際、国保加入手続きとらず、以後2年間無保険。健康に自信あり病院にかかることなかった。 | 来院の2週間前から起きあがれず、食事もとれないことを心配した兄が病院に連れてきた。受診前に国保加入した。肝臓・肺・脳などに癌が転移していた。状態悪く検査が出来ず。癌の原発は特定できなかった。 | 入院から10日で死亡。 |

全日本民医連 2010年国民健康保険など死亡事例調査報告 【Ⅱ、協会けんぽ・国保・後期高齢者】 2011.3.27リリース

| No | 県連 | 年齢 | 性別 | 職業 | 保険 | 保険 推移 | 初診 日 | 基礎 疾患 | 死亡 日 | 事例 | 事業所との かかわり | 結果(帰結) |
|----|----|----|----|----|----------|--------------------|------------|--|---------|---|--|---|
| 54 | 長野 | 55 | 男 | 無職 | 国保 | | 2010.12.13 | シ ョ ッ ク、 血、 上 行 結 腸 癌 循環 血 流 量 減 少 性 貧 血、 哲 欠 乏 性 貧 | 12月13日 | 元々何らかの障害(発達障害?)疑われる。結婚するも離婚、子どもなく両親からは勘当され家を出た。土木作業員として仕事先の小屋で生活されていたとのことだが、仕事がままならなくなり解雇(11月末付け)された。体調不良に耐えられず12/13当院受診。急性期治療を要し、他院集中管理病棟に紹介、同日死亡された。 | 当院は7年前に一度頭痛で受診歴あり。他院通院あったようだが詳細不明。当院受診し、家族に連絡するも「死んでもかまわない」と。 | 当院より説得され他院転院。検査中意識消失され集中管理病棟にて対応するも同日死亡。家族が支払いませる。 |
| 55 | 長野 | 82 | 男 | 年金 | 後期 高齢 | 不明 | 2010.2.15 | 胃 癌 術 後、 大 前 立 腺 肥 | 3月26日 | 2006年9月、他県A病院で胃癌オペ後、2006年10月、当地A市の別荘に移転された。A病院からの診療情報持参され、当院受診歴あった方だがその後中断。2010年2月15日、市生保担当者に付き添われ、食事が摂れず動けなくなっていたのを、当院外来受診。 | 当院診察結果、点滴処置後動けるようになり、市に生保の相談も含め対応依頼、自宅療養可と判断。介護保険の申請も含め市にフォロー依頼。中断対策に至らず。 | 2010年3月26日、警察より、ご本人心肺停止状態で発見、当院受診状況、病状、経過説明求められ院長説明。 |
| 56 | 長野 | 64 | 男 | 無職 | 国保 | 国保 ↓ 生保 ↓ | | コ ー ル 依 存 症 、 ア ル 症 | 12月19日 | 独居、4年前アルコール依存症で当院入院、そこで生保申請。K病院にアルコール治療のため転院、退院後断酒会(当院運営)に來たり來なかつたり。受診も中断しがちでSWが訪問したりフォローしていた。 | ある時再度飲酒し「助けてくれ」と再入院。またアルコール治療のため転院。退院後は「生保は嫌だ」と郵便配達の仕事につき、貯金もあったので生保廃止になった。その後もSWが電話したり関わりが途切れないようにしていた。 | 12/22、SWより安否確認の電話を入れる予定。そこに警察の電話あり、「本日死亡しているのを発見。死後3日たっている」とのことだった。 |
| 57 | 長野 | 59 | 男 | 無職 | 国保 | 国保 ↓ 生保 | 2010.1.20 | 慢 性 腎 臓 症、 糖 尿 病、 転 移 性 肝 癌、 肝 硬 変 | 9月16日 | 家族は妻と長男。数年前より別居、どちらも経済的に厳しい。浮腫を主訴に開業医を受診したところ、糖尿病性腎症を指摘され、1/20当院受診。検査したところ慢性腎臓症、腹水、肝腫瘍などにより入院を勧めたが、お金が心配なので入院はできない、と帰宅。村の保健師・福祉課の協力を得て入院したが、化学療法も腎機能が悪く行えず、余命も告げられる中、療養を行い9/16亡くなる。 | 再診から入院必要と判断され連絡したが、「病院へ行くガソリンもない。所持金200円、米もあと数日分しかない。とても行けないしお金もないのでかかれない。放っておいてください。」と仰る。村の方に訪問してもらい、付き添って受診してもらい入院。即日、生保相談したが、生命保険契約・入院給付金あるため受付けられず、子どもから一万円の仕送りを受ける。途中で生命保険の給付を受け入院費支払う。途中退院の際、生活保護申請した。 | 余命を告げられ、母親と同居したいと希望したが、弟さんにも経済的余裕はないと言われ、当市で過ごすしかないと言われ、覚悟を決められた。知人の好意で当市にアパートを借り、借金などは破産申請など行い、子どもに迷惑はかけられない、と自分の身辺整理を行っていた。透析導入も行ったが全身状態悪くなり、最後は妻・息子さんが来て下さった。入院中に死亡。 |

| No | 県連 | 年齢 | 性別 | 職業 | 保険 | 保険 推移 | 初診 日 | 基礎 疾患 | 死亡 日 | 事例 | 事業所とのかかわり | 結果(帰結) |
|----|----|----|----|-------|------|-----------------------------|------------|------------------|---------|--|---|--|
| 58 | 愛知 | 61 | 男 | 非正規雇用 | 国保 | 協会けんぽ ↓ 国保 ↓ 生保 | 2010.9.21 | 肝細胞癌末期 | 9月30日 | 10年前に離婚し別居。子2人とも連絡とっていない。2年前に他県から当県へ転居、タクシー会社正規職員として寮生活に。60才よりアルバイト。今年5月に退寮しアパートに転居。体調不良で働けなくなり収入1万円/月程度に。国保料滞納。4月に他院入院歴あるが入院費は分割払いで未払いのまま。当院入院2週間前に生活保護係に電話で相談したところ「動けないのであれば、まず病院へ行きMSWと相談を」と言われていたと本人は言われていた。 | 1ヶ月前より食欲低下、下痢、下腹部痛あり。症状が増悪したため、会社の知人に頼み救急要請し当院へ搬送。精査の結果、肝細胞がんがあることが判明し入院治療(9/21)。9/28病棟師長より身寄りが見つからず、対応を、と連絡ありMSWが介入。本人面談し、生活保護申請。元妻の連絡先は判り病棟より連絡するも「関わりたくない」と言われ、以後病院からは連絡とれず。 | 9/30、危険な状態と病棟よりMSWに連絡あり。保護係に状態報告し、死亡時は民生葬と確認(元妻へは保護係からも連絡するが連絡とれず)。10/1死亡。民生葬ということで、ご遺体は業者が引き取られた。その後保護係から元妻に連絡とれたが妻も子も憎しみしなく関わりたくない。医療費は、今回救急搬送され死亡ということもあり、病院側としてもどうしようもないと思われたため、もう二度とできないが特別に生保で9/21まで遡りとするとの連絡があった。 |
| 59 | 大阪 | 66 | 男 | 非正規雇用 | 国保 | | 2009.11.28 | 高血圧、 癌、 膵臓 | 2月11日 | 無年金。警備(夜間)のバイトで生活維持。背部痛で受診。精査勧められた頃には、痛みが強まり仕事に出るのも辛くなった。外来は無料低額診療、適応。入院すると収入途絶えると迷っていたが、仕事にいけない状態ではないと断念 | 近医から精査・治療目的で紹介。検査費用が払えないと相談室へ。 | 入院治療決定後、退職、生保申請。末期ガンにて手術・化学療法適応なく、疼痛コントロール目的で入院。約1ヶ月の入院で死亡。 |
| 60 | 大阪 | 84 | 男 | 年金 | 後期高齢 | 国保↓後期医療 (滞納なし) | 2010.3.9 | 胃癌 | 3月19日 | 2009年末頃より食欲不振、顔色不良、やせ著明にて本人の妻のケアマネが受診をすすめていたが、「医療費が払えない」と拒否。息子の自営業(牛乳屋)も自転車操業でやりくりが精一杯。状態好転せず、ケアマネから無低で当院相談。 | 大阪府南部の民医連加盟のケアプランセンターからの相談紹介。他市であったため、当該市の無低事業所の案内を相談されたが事態が緊迫していることは推察されたため、当院受診すすめ、了承された。 | 3/9初診以降、検査で確定するまでもなく悪性、末期と診断された。即入すすめるも「最後になるかも」と一旦帰宅。数日後、食事もとれず入院されたが4日目に死亡。 |
| 61 | 兵庫 | 54 | 男 | 無職 | 国保 | 国保↓生保 | 2010.8.3 | 肝障害 | 8月末日 | 独居、ほとんど受診歴なし。2週間前より体調悪く、仕事できない状態に。8/3検査希望で近医受診、緊急入院になったが病状改善せず、当院へ転院。 | 8/20家人の希望で転院、国保料滞納あり。限度額認定受けられず。入院と同時に生保申請、病状的に当院対応不可能にて他院救急センター転院。 | 当院は1日のみの入院、費用23,000円は9月に家人が支払いに。生保決定するが1週間後死亡される。 |

| No | 県連 | 年齢 | 性別 | 職業 | 保険 | 保険 推移 | 初診 日 | 基礎 疾患 | 死亡 日 | 事例 | 事業所との かかわり | 結果(帰結) |
|----|----|----|----|------|-------|----------|------------|----------|---------|--|--|--|
| 62 | 兵庫 | 61 | 男 | 正規雇用 | 協会けんぽ | | 2010.11.15 | 膵臓癌 | 11月29日 | <p>本人と内縁の妻の二人暮らし。本人も妻とも年金の加入期間が足りず、年金の請求権はなかった。本人のタクシー運転手の給与と妻の保育所の清掃のパート給与で生活をしてきた。しかし、妻が65歳で雇用形態が変更になる。残業代なく、働ける時間が少なくなり、収入が減少した。生活費もぎりぎりの状況で家賃も滞納し、現在分割で返済している状況。</p> | <p>それでも働ける間は生活保護にはなりたくない、生活保護の申請はしてこなかった。本人は半年前から体調が悪かったが、医療費を支払う余裕がなかったため、受診はしなかった。しかし、どうしても痛みがひどく、耐えきれなかったため、今回受診したところ、膵臓癌の末期と診断され、即入院となった。受診する2~3日前まで仕事をされていた。医療費の不安があるということで、11月18日にMSWへの相談を妻が希望され、介入に至った。</p> | <p>11月19日に生活保護の申請に同行するが、手持ち金が多かったこととタクシー会社からの給与の関係があり、その日の受理は受け付けてもらえず。そのため、その関係を整理し、再度11月22日に申請し、受理される。11月15日から11月21日までの医療費は、限度額適用認定を利用すれば、支払い可能とのことなので、限度額適用認定の申請を行うことになる。家人としては、医療費も心配だったが、それ以上に葬儀をあげる費用がないことのほうが実は心配だったとのこと。本人はその後11月29日に亡くなる。</p> |
| 63 | 島根 | 66 | 男 | 正規雇用 | 協会けんぽ | | 2010.2.18 | 直腸癌 | 2月28日 | <p>アパートにて独居。タクシードライバー歴10年だが、前年4月頃より身体のだるさあり仕事できず。会社上司が病院受診すすめるが、本人拒否。厚生年金は約10万円/月。アパート家賃の滞納もあり。受診約1ヶ月前から便失禁状態あり、10日前からは両下肢浮腫にて歩行不能、ほとんど絶飲食状態だった。</p> | <p>本人より会社へ体調不良の連絡入り、救急搬入された。医事課より保険未確認ケースとして、相談室へ介入依頼あり。診察の結果、直腸癌の膀胱浸潤、腹壁浸潤による膿瘍と診断、緊急入院。切開ドレナージ施行、その後腸閉塞おこされ人工肛門を造設された。</p> | <p>入院時MSWとの面談にて、生保申請希望されたが身内との連絡は拒絶された。会社上司の方にキーパーソンになっていたが、「入院費限度額適用認定」手続きと親族の連絡調整を依頼。しかし、本人の全身衰弱が進み、入院11日目に死亡された。</p> |

| No | 県連 | 年齢 | 性別 | 職業 | 保険 | 保険 推移 | 初診 日 | 基礎 疾患 | 死亡 日 | 事例 | 事業所との かかわり | 結果(帰結) |
|----|----|----|----|-----|----|----------|------------|---|---------|---|--|--|
| 64 | 島根 | 64 | 女 | 無職 | 国保 | | 2010.9.15 | 脳血 栓症、 再発性 脳梗塞、 糖尿 病、高血 圧 | 10月29日 | 娘と2人暮らし。パートで働いてきたが、年金はかけていない。糖尿病、高血圧を以前から指摘されるも、受診すればお金がかかると放置していた。最近体調悪く働けなかったが、娘が二ヶ所かけもちで働き、国保料だけは払っていた。数日前よりふらふらするなど症状あり、家族から受診をすすめられるも、医療費が支払えないと拒否していた。9月15日起床時より嘔吐、身体にまったく力入らず救急搬入された。完全左片麻痺あり。 | 当院の受診歴なし。入院翌日、救急外来で担当した医師より「経済困難がありそう」と介入依頼があった。すぐ家族と面談、生保も検討したが娘さんが生命保険をかけており、入院給付金が見込めるため保留。2人世帯であれば課税であるため、保険料は発生しても世帯分離したほうが医療費軽減でき、メリットは大きいと判断。手続きを進めていた。 | 娘さんは病状安定すれば、自宅で自分のパートの仕事を減らしてでも見てやりたいと希望を語り、そのときはまた生保の検討を、と相談していた。一時良くなり回復期でのリハを検討していたが、多発性脳梗塞出現、10月29日死亡退院となった。 |
| 65 | 広島 | 60 | 男 | 無職 | 国保 | | 数年前 | 糖尿 病 | 6月1日 | 2009.12、勤め先解散もしくはリストラ。それ以前から外来中断あり、無収入になったため知人宅に居候。知人も障害あり、収入は障害年金のみで生活費をまかなっていた。2月に医療費相談対応、6/1救急来院されたが、本人死亡。 | 中断しながら外来通院されていた。最近の医療費は同居の知人が支払っていた。短期証でもなかった。軽度知的障害あるとおもわれ、受付でも気にしていた。相談室では生保申請も助言したが、本人は拒否。継続的なかかわりが必要と感じていた。 | 救急来院後死亡。身内の連絡先不明、同居知人も引き取り拒否。行路病人扱いにしようかと相談すめていたが、2日後身内の連絡先が判明(行政が探した)。 |
| 66 | 広島 | 55 | 男 | 自営業 | 国保 | | 2010.10.2 | | 11月12日 | 自営業送業、毎日働きづめ。80代母と2人暮らし。長年健診受診なし、体調不良で近医受診、当院へ紹介入院。腸に巨大腫瘍、手術不可、状態は末期。本人の希望で積極的治療望まれず、一旦退院、近医からの往診、点滴対応、状態悪化し11/12緊急入院、当日死亡。 | 自営業収入は一定あったが、家のローンあり入院したとたん収入ゼロに。廃業手続き(トラック売却など)で貯蓄を使い果たした。直近3ヶ月の収入では国保一部負担減免対象にならず、生保は母に自宅を残してあげたい思いから希望されず。 | 初回入院後、MSWも介入し援助したが具体的な手が打てず、減免申請を12月になつたらしよう、と約束したがその前に亡くなられた。 |
| 67 | 愛媛 | 71 | 男 | 年金 | 国保 | | 2010.11.29 | 前立 腺癌、 肺 炎、 心内 膜下 梗塞、 | 12月1日 | 胸痛は半年くらい前からあったが、がまんしていた。3年前より修理工場の廃車内で生活、それまでは高速の高架下で生活。修理工場の人がよくてくれた。8年前借金とりに追われるようになり常に木から飛び降りようと思っていた。年金は月5万円、家賃なく家借りられず、生保は家族に迷惑になるので拒否。 | 開業医からの紹介。糖尿病、高血圧の治療で開業医に通院していたが経済的理由で検査拒否。 | 11/28～呼吸苦、11/29胸痛がまんできずかかりつけ医に受診後、当院へ救急車で入院。生保の話するも拒否。国保滞納なく限度額認定証とる。銀行から全額2万円引き出し。12/1急激な徐脈、心原性ショックにてなくなる。DNR(蘇生処置拒否)希望であったためそのままおくる。 |

| No | 県連 | 年齢 | 性別 | 職業 | 保険 | 保険 推移 | 初診 日 | 基礎 疾患 | 死亡 日 | 事例 | 事業所とのかかわり | 結果(帰結) |
|----|----|----|----|-------|----|----------|------------|-----------------------|---------|---|--|---|
| 68 | 福岡 | 68 | 男 | 無職 | 国保 | | 2010.12.17 | 肝硬変 | 12月26日 | 12月17日に建設関係の労働組合より紹介され、来院。半年程前からお腹がはっていたが、お金が無く受診を控えていた。1週間くらい前から、まんでできない程の痛みとなり、無料低額診療を承認した。当日は検査を行い、翌18日再度来院していただいた。肝機能障害の疑いで、法人内病院へ入院となった(18日)。12月26日、腹壁腫瘍・出血性ショックで亡くなった。家族は息子1人のみ、生活がぎりぎりのため頼ることができなかった。健診も、今年は体調が悪く受けなかった。 | 相談を実施。年金を含め1年以上収入は無く、預貯金は若干残っていたが、入院も必要と考えられ、その後の生活・生活保護申請、本人がそれまで経済的な理由で受診を控えていた経過を踏まえ、無料低額診療を承認した。無料低額診療の申請の際は、目に涙を浮かべられた。 | 診療所に初めて来院し亡くなるまでわずか10日間であった。非常に短期間であったことが、経済的理由による受診抑制の強さを物語る。 |
| 69 | 沖縄 | 72 | 男 | 年金 | 国保 | | 2010.6.9 | 直腸癌、肝転移 | 7月20日 | 独居。6/9銀行内で倒れて当院へ救急搬送された。消化管出血の診断で入院、諸検査の結果「直腸癌、胃潰瘍、転移性肝癌末期」の状態だった。 | 当院には通院歴なし。自宅近くの開業医に通院歴あり。入院当初、身内の連絡先不明だったので、自宅訪問し姉との連絡がとれた。 | 本人より生保申請相談受け、義兄とともに申請にいったが、入院中の保護基準には上回る年金収入あり受理されず。 |
| 70 | 沖縄 | 61 | 男 | 非正規雇用 | 国保 | | 2010.4.30 | 腹水、貧血、食思不振 | 7月22日 | 同日近医より紹介され当院内科初診。独居、住民証はA村だが当市内にアパートを借りて長年、建築の解体業に従事していた。 | 4/30～入院中に姉から生保申請の相談を受けたが本人の了解得られず、申請していない。 | 入退院を4回繰り返し「肺腺癌」診断されたがすでに転移があり、治療もない状態で約3ヶ月で亡くなられた。 |
| 71 | 沖縄 | 45 | 男 | 自営業 | 国保 | | 2009.6.10 | 頸性糖尿病、脳脈出病、狭血、窄、陳症、内急 | 11月7日 | 他院病院から紹介、当院脳外科受診、入院治療2回とも国保証44条申請行い、半年間(H22.6-11月)は免除が認められた。 | 当時は母、妹と本人と妻の4人世帯だった。H22.10月～本人と妻は別にアパートを借りて世帯分離し、仕事も「運転代行」についていた。 | 仕事についた矢先、10/21心臓停止状態で救急搬送、集中治療室に入院したが治療のいかなく18日目に死亡された。妻より生保申請の相談あったが、申請にいたらなかった。 |